

ダニエル書 - 第八十一番

ラオデキア的アドベンチズムにおける歴史修正主義の解明：『日ごとのさげ物』をめぐる論争の検証

Jeff Pippenger

2024-02-14

結果を誤って定義してしまえば、原因から結果への推論は無意味である。これは、1888年ミネアポリスでの総会に関連する状況や人物について権威ぶって論じるラオデキア的アドベンチストの歴史家たちがそうしてきたように。靈感による論評は、その出来事をコラ、ダタン、アビラムの反逆の繰り返しであると見なしており、その反逆は、彼らに四十年の荒野の放浪を課した裁きによって動機づけられていた。同じ裁きがラオデキア的アドベンチズムにも宣告されていた。

その反乱には秘密の協議が含まれており、反逆者たちはあまりにも極端なラオデキア的盲目の中にいたため、神が彼らの密室での計画や反逆を知っておられることを理解できなかった。コラ、ダタン、アビラムが自分たちの天幕に隠れて策を練り、モーセに対する反逆を広めたように、1888年の古参の男たちもまた、家の閉ざされた扉の陰に身を潜め、ホワイト姉妹とその息子、そして選ばれた使者たちに対する陰謀を企てた。その時点からホワイト姉妹、ジョーンズ、ワゴナーは攻撃を受けることになった。

アドベンチズムの四世代は、エゼキエル書8章に示されているように、反逆の度を次第に強めていった。実際の神殿と人間という神殿の内部にある「想像の部屋」は、邪悪な想念が固く根を下ろし、民を守るために任じられていた長老たちの上には心霊主義が覆いかかった。1888年に至るまでの過程で、長老たちは聖書の権威をおとしめ、ついには「預言の霊」までもおとしめ、そして1884年には公の幻視が止んだ。ケログの汎神論的心霊主義は、1888年に先立つ歴史の中に浸透し始め、1888年は第二世代の到来を画する。アドベンチストの歴史家たちは、その会合で現れた反逆の実際の歴史的証言を記録していなかったかもしれないが、靈感によれば、天の見張りたちは「一つ一つの言葉を聞いて記録し」、その「言葉を天の書に」記した。

エゼキエルの『凶像の密室』に象徴される反逆は、真の土台への攻撃を意味していた。それは女預言者と選ばれた使者たちへの攻撃をも意味し、心霊主義の到来を告げるものでもあった。その世代において、次の重大な攻撃は、サタンがウィリアム・ミラーの土台のまさに基礎に対して仕掛けようとしていた。

ミラーは、自身のすべての預言的適用の枠組みを、ダニエル書8章13節の二つの荒廃させる権力が、異教に続いて教皇制を表しているという理解に基づいて築いた。1901年、ドイツのラオデキヤ派アドベンチズムの指導者であったルイス・コンラディは、ダニエル書における「the daily」がキリストの聖所における奉仕を表すと看做し、墮落したプロテスタントの見解を再導入した。

1888年のミネアポリス会議後の時期において、医療事業の指導者の心霊主義はエスカレートし、ジョーンズとワゴナーのメッセージが拒絶された余波が深刻な影響を及ぼし続

ける中、指導者たちの間の不和は続いた。新世紀の初めには、背教したプロテスタントの諸学校で神学の資格を授与されていたラオデキヤ的なアドベンチストの指導者W・W・プレスコットが、コンラディの「the daily」に関する見解を推進するためにサタンの役割を引き受けた。そして、常にそうであるように「勝者が歴史を書く」。

聖なる天使たちは真の歴史を記録した。ところがラオデキヤ的アドベンチズムは、「the daily」に関するミラー派の理解を退けることをめぐる論争についての歴史叙述を作り上げ、そのためラオデキヤ的アドベンチズムの中の「無学な」者なら誰でも、シスター・ホワイトが「天から追放された天使たち」から出たものだと指摘した「the daily」の定義を、実際には真の教理であると信じるようになってしまう。

20世紀初頭、W・W・プレスコットが先頭に立って『The Protestant』という刊行物の刊行を主導した。その刊行物の全体の前提は、ミラーの「the daily」に対する理解は誤りであり、彼が神学的資格を得た背教的プロテスタント主義が、キリストにサタンの象徴を割り当てる点で正しい、と教えることにあった。その過程で、A・G・ダニエルズ（総会会長）は、シスター・ホワイトが「the daily」に関するミラーの見解を正しいとして直接支持していたという事実にもかかわらず、真理に対するサタンの攻撃においてプレスコットと手を組んだ。

主は私に、1843年の図表は主の御手によって導かれ、そのいかなる部分も変更してはならず、数字も主が望まれたとおりでであることを示された。さらに、主の御手がある上であって、いくつかの数字にある誤りを覆い隠しておられたため、御手が取り去られるまでは、誰にもそれは見えなかった。

それから私は、『Daily』に関して、『sacrifice』という語は人間の知恵によって補われたものであり、本文に属するものではないこと、そして主はその正しい見解を「裁きの時の叫び」を上げた者たちにお与えになったことを見た。1844年以前、一致があった時には、ほとんどの者が『Daily』についての正しい見解で一致していたが、1844年以後は混乱の中で他の見解が受け入れられ、闇と混乱が後に続いた。Review and Herald、1850年11月1日。

プレスコットとダニエルズが「the daily」の真理に対して攻撃を仕掛けていた当時、プレスコットとダニエルズはその問題について少数派の意見を代表しており、論争の最中にホワイト姉妹がこの二人に与えた助言は、彼らは黙っているべきだということだった。もっとも、彼女は「沈黙こそあなたがたの知恵である」といった、より外交的な言い回しでそれを述べた。彼女は彼らの誤った見解を戒めた際、「the daily」という問題を試金石とすべきではないことも強調した。歴史修正主義者たちは（歴史修正主義とは、カトリック教会のイエズス会に端を発するとされる歴史的方法である）が、教義の公正な評価を妨げるために、「the daily」を試金石とすべきでないという彼女の発言を利用してきた。彼らは彼女の発言を歪曲している。というのも、彼女が「the daily」の問題を騒ぎ立てることに反対する助言をした際、つねに「現時点では」や「現在の状況のもとでは」といった但し書きを添えていたことを、決まって省いてしまうからである。

預言者であった彼女は、教会全体に大きな分裂を招きかねないほどにエスカレートしていた論争に歯止めをかけようとしていた。それは、指導者であるがゆえに自分たちが真理だと見なしたのなら何であれ推進する権限があると考えた少数者によって引き起こさ

れた論争であった。主は彼女の影響を通して、彼女が亡くなるまでそのサタンの働きを抑えておられた。ところが1931年には、「the daily」の真理を退けようとする新たな動きが起こり、ついには成功した。今日では、「the daily」の定義についての真の理解はラオデキア的アドベンチズムの中では少数派の理解であり、現在の状況下では「the daily」は今や間違いなく試金石となる問いである。

多数派の見解が真の理解を保っていたときには、それは試金石ではなかった。しかし、どんな真理であっても誤りと定義されるとき、それは試金石となる。『Manuscript Releases』と題する原稿集が1980年代ごろに出版されたとき、彼女がミラーの見解を支持しているのと同じくらい直接的に、プレスコットとダニエルズの「the daily」観に反対している記事があることが認められた。

私たちの経験のこの段階において、私たちの会議の重要な会合で考慮すべき、私たちに与えられた特別な光から、私たちは心をそらしてはならない。そこには、敵が働きかけていたダニエルズ兄弟がいた。そしてあなたの心もプレスコット長老の心も、天から追放された天使たちに働きかけられていた。サタンの働きは、主があなたがたに持ち込むよう靈感されたのではない一点一画を持ち込ませるために、あなたがたの心をそらすことだった。それらは本質的ではなかった。しかしこれは真理の大義にとって大きな意味を持っていた。もしあなたがたの心がそらされ、一点一画にこだわるようになるなら、それはサタンの策謀による業である。書かれた書物の些細なことを正すことが、大いなる働きをしていることだと、あなたがたは思っている。しかし私は、「沈黙は雄弁である」と命じられている。

私はこう言わねばならない。あら探しはやめなさい。もし悪魔のこの目的が実行されさえすれば、あなたには自分の仕事が着想の点でこの上なく見事なものに見なされるだろうと思われるのです。敵の計画は、あらゆる層の人々の意見が一致しないところに、いわゆる問題だとされる点をことごとく持ち込むことでした。

それではどうなるのか。悪魔を喜ばせるまさにその業が実現することになる。私たちの信仰に属さない外部の人々には、まさに彼らの意にかなうような印象が与えられ、それによって大きな混乱を招くような性格的特質が培われ、人々の前に偉大なメッセージを熱心に掲げるために用いられるべき貴重な時が奪われる。私たちが取り組んできたいかなる主題に関する提示も、すべてが調和することはできず、その結果、信者と不信者の思いは混乱させられるであろう。これはまさに、サタンが起こるようにと計画していたこと-不一致として誇張できることなら何でも-である。

エゼキエル書第28章を読みなさい。さて、ここには、奇妙な霊が姿を現しうる大いなる業がある。しかし主には、滅びゆく魂を救うためになされるべき御業がある。そして、変装したサタンは、私たちの陣営に混乱をもたらすために入り込めるあらゆる隙を見つけずには完璧に埋め、あの些細な相違はすべて拡大され、目立つものとなる。

私は最初から、主がダニエルズ長老にもプレスコット長老にもこの働きの重荷をお与えになっていないことを示されてきました。サタンの策略が持ち込まれるべきでしょうか。この重要な時期に、この「Daily」が思いを混乱させ、働きの前進を妨げるほどの大事として持ち込まれるべきでしょうか。たとえどうであれ、そうであってもはなりません。この主題は持ち込むべきではありません。なぜなら、持ち込まれる霊は人を退

けるものとなり、ルシファーは一挙手一投足を見張っているからです。サタン的な勢力がその働きを始め、私たちの陣営に混乱がもたらされるでしょう。あなたがたは、試金石となる問題でもない意見の相違を掘り起こすようには召されていません。むしろ沈黙こそ雄弁です。私の前にはこの事柄がすべて明瞭に示されています。もし悪魔が企てているように、この件で私たち自身のだれかを巻き込むことができれば、サタンの側の勝利となるでしょう。今や遅滞なくこの働きに取りかかり、意見の相違はいささかも表明しないことです。

サタンは、私たちのもとから出て行った人々をそそのかして悪の天使たちと結束させ、取るに足らない問題をめぐって私たちの働きを妨げようとするだろう。そして敵の陣営では、どれほどの歓喜が[そこ]で起こることだろう。固く団結しなさい、固く団結しなさい。あらゆる違いを葬り去りなさい。今の私たちの務めは、体力と脳神経の力のすべてを注いでこうした違いを取り除き、皆が調和することにある。もしサタンが、その大いなる聖められていない知恵をもって、ほんのわずかでも足場を得ることを許されるなら、[彼は喜ぶだろう]。

さて、あなたがどのように事を進めているかを見たとき、このまま先へ進み、私たちから離れた者たちに、私たちの陣営に混乱を持ち込ませるわずかな機会でも与えるならどうなるか、私は状況全体とその結果を見通しました。あなたの知恵の欠如は、まさにサタンが望むところです。あなたの声高な宣言は、聖霊の感動によるものではありません。神に導かれてきた人々の著作にあら探しをするあなたの態度は神からの靈感によるものではない、と私はあなたに告げるよう指示を受けました。そして、もしこれがダニエルズ長老が人々に与えるという「知恵」なのだとしたら、決して彼に公的な地位を与えてはなりません。彼は因果関係に立って論じることができないからです。この件に関して沈黙を守ることこそ、あなたの知恵です。いま、すでに亡くなった人々の刊行物のあら探しの類は、神があなたがたの誰にもお与えになった務めではありません。というのも、もしこれらの人々——ダニエルズ長老とプレスコット——が、都市で働くために与えられていた指示に従っていたなら、真理を確信して回心した者が実に大勢生まれていただであろうし、[今]は決して手の届かない地位にいる有能な人々も得られていたからです。

世界全体は一つの大きな家族と見なされるべきである。そして、そのような知識の泉、すなわち私たちの主イエス・キリストによって与えられた証しから汲み取ることができるのに、なぜ長年にわたって世界を滅びるに任せてきたのか。真の宗教は、すべての人を、私たちが善を施す相手として見るように教える。

これは長年にわたって印刷されてきた、「均衡の取れた心」——アンドリュース長老への証言。思いは、いつ語るべきか、どの重荷を取り上げて担うべきかを見分ける力となるように培うことができる。キリストがあなたの教師だからである。そして私は、あなたが自分の知恵を高く掲げ、意見の相違を招く道を進んでいるのを[あなたを見たときに]、あなたのために大いに恐れた。主は、そうすることが知恵[である]ときに沈黙を守ることのできる賢い人々を求めておられる。あなたが全き人でありたいなら、イエス・キリストによる聖化が必要である。今、始まったばかりの働きがあり、すべての牧師に、各会議のすべての会長に、知恵が見られるようにしなさい。だが、ここには何年も前にあなたが取り組むべき働きがあり、まさにこの働きのためにあ

あなたが声を上げることが必要とされていたのだ。キリストは御自分の民すべてに、何をすべきか、してはならないことは何かについて、特別な指示をお与えになった。そして、主の義を実行するために私たちに残されている時はわずかである。あなたは主の道を理解できる。あなたが会長に据えられた後、自分の案のとおり物事を運ぼうとするあなたの目的を、私は見た。あなたは自分が驚くべきことを行うだろうと考えていたが、それは神があなたの手に成させるためにお与えになった業ではなかった。今、主があなたを奉仕に受け入れておられるのであれば、あなたの働きは、抑圧することではなく、可能なかぎりあらゆる欠乏を解消することである。だがあなたはごく早い段階から、知恵と聖められた判断があなたにおいて現されていないという証拠を示してきた。あなたは、主が光をお与えにならない限り受け入れられないような事柄を、声高に打ち出した。

私は、あなたをさらにもう一年、大会の会長に選出するような、そのような性急な動きは行すべきではなかったと示されました。しかし、この件が祈りをもって主の御前に持ち出されるまでは、そのような性急な取り決めをこれ以上することを、主は禁じておられます。そして、会長に委ねられている主の働きがきわめて厳粛な責任であるというメッセージがあなたに与えられているのですから、「デイリー」の件についてあなたがしたように激昂し、自分の影響力でその問題が決まると思い込むことは、あなたには道徳的権利がありませんでした。重い責任を担ってきたハスケル長老がおり、アーウィン長老もおり、同じように重い責任を負っている者として名を挙げるのできる人がほかにも何人かいます。

年長者へのあなたの敬意はどこにあったのですか。責任ある人々すべてにその件を吟味させることなくして、あなたはどんな権威を行使できたというのですか。では今、その件を検討しましょう。なおざりにされてきた働きを前にして、その働きをさらにもう一年遂行しようとするあなたの熱心を示すことが主のご判断によるものかどうか、私たちは今あらためて考え直さなければなりません。もし、あなたと一致して協力する助けを得て、その働きをもう一年続けるのであれば、あなたとプレスコット長老のうちに変化が起こらなければなりません。そして、神の御前で自分の心を低くしなさい。主はあなたがたのうちに別種の経験の現れを見なければなりません。というのも、もしこの現在の[時]に人々が再び回心する必要があるのだとすれば、それ[である]のはダニエルズ長老とプレスコット長老です。

知恵ある者であり、神の恵みの働きによって再び回心したことの証拠を示す七人を選ぶべきである。というのも、原因から結果へと推論することもできないほどに盲目になり、働きの責任を担ってきた人々やこれらの会議の会長たちを無視し、二年以上にわたって働きを担ってきた人々をも顧みず、その衝動的な成り行きとして、長年彼らの前に掲げられてきたまさにその働き-すなわち都市における働き-をないがしろにし、助言を求めるにあたって年長者には全く、あるいはごくわずかしが注意を払わず、人々に与えようと自分たちで選んだ事柄を宣言するような者は、そのように壮大で驚くべき働きを託すには安全でないことを、それ自体が証しているからである。

キリストは死んでおられない。このような奇妙な方法でご自身の働きが進められることを、決してお許しにならない。書籍には手を触れないでおきなさい。もし何らかの変更が不可欠であるなら、その変更における調和は、[神]によって首尾一貫したものと

される。しかし、重大な責任を伴うメッセージが人々に委ねられているとき、[神]は愛によって働き、魂を清める忠実さを求められる。ダニエルズ長老とプレスコット長老はいずれも再回心を必要としている。奇妙な働きが入り込み、それはキリストが私たちの世界に来てなされた働きと調和していない。そして、真に回心した者は皆、キリストのわざを行う。

私たちは皆、父なる神に栄光を帰する働きをそれぞれ成し遂げなければならない。私たちは危機に至っている—この準備の時に、イエス・キリストの品性に自らを合わせるのか、さもなければそれを試みないのか、どちらかである。ダニエルズ長老、同様の状況でこれまでしてきたように、自分の声を高らかに響かせる自由があるとは思ってはならない。そして理解しなさい。会議の会長は支配者ではない。彼は、神に認められて会長の職にある賢明な人々と協力して働くのである。神に受け入れられた筆による印刷された書物の著作に干渉する自由は、彼にはない。彼らは、支配的で専横的な力をより控えることを示さない限り、もはや影響力を行使してはならない。危機は到来した。神が辱められることになるからである。

主は未伝道の都市をどのようにご覧になっているのか。キリストは天におられる。今、認めるべきことはこうである。「王としての支配はない。今はこの世の危機の時である。今、救うことも滅ぼすこともできる力はわたしである。今こそ、すべての者の運命はわたしの御手の中にある。わたしは世を救うためにわたしのいのちをささげた。そして『もしわたしが上げられるならば』、わたしが授ける救いの恵みは、神の似姿にかたどられ、わたしと一つにされるすべての者が、わたしの贖いの恵みの力によって、わたしが働くように働くことを証明するであろう。」望む者はだれでも、主の与える勧告のもとで責任ある立場に置かれたときに与えられた業を行うために、兄弟たちと力を合わせ、そして、世をこれほど愛し、その救いのためにご自身のいのちを完全な犠牲としてささげられた方と完全に調和して働くことを、最も熱心に求めなさい。私はわたしたちの伝道者たちに語る。彼らがわたしたちの都市での働きに入るにあたり、みことばの務めには静かな神聖さが伴うようにしなさい。もしわたしたちが... なら、人々の心に適切な印象を与えることはできない。

日記から書き写します。イエスにあるそのままの真理を—それを語り、そのために祈り、その単純さのままに一言一句を信じなさい。信仰から離れ、惑わす霊に耳を傾け、ついこの間まで私たちと共に信仰にあった人々に過ちを示したところで、あなたは何を得るのでしょうか。あなたは悪魔の側に立つのですか。手つかずの畑に目を向けなさい。私たちの前には世界的な働きが控えています。私はジョン・ケログに関する示しを受けました。

非常に魅力的な人物が、自ら提示しているもっともらしい論法の背後にある思想を体現しており、それは真の聖書の真理とは異なる見解であった。そして、何か新しいものに飢え渴いている人々は、[あまりにもっともらしい] 考えを唱えていて、プレスコット長老は大きな危険にさらされていた。ダニエルズ長老も、これらの見解が至る所で語られれば新しい世界になるかのような妄想にとらわれてしまう [危険に] 大いにさらされていた。

はい、そうなるでしょう。しかし、彼らの心がこのように没頭している間に、私は、ダニエルズ兄弟とプレスコット兄弟が、自分たちの経験の中に霊的[心霊主義的]な様

相を帯びた思想を織り込み、可能ならば選民さえも欺くような美しい思想へと私たちの民を引き寄せていることを示された。私は筆で[その事実を]記しておかねばならない。すなわち、これらの兄弟たちの迷妄的な考えには真理を不確かにしてしまう欠陥があり、彼らはそれを見いだすで[あろう]が、[なお]彼らは大いなる霊的識別力を[持っているかのように]際立って見える[であろう]ということである。今、私は彼らに[ということ]を伝えなければならない。私がこの事柄を示されたとき、すなわち、ダニエルズ長老が「“Daily”」に関する自分の考えを擁護してラッパのように声を上げていたときに、その後の結果が示されたのだ。私たちの民は混乱しつつあった。私はその結果を見た。そして私には、もしダニエルズ長老が、成り行きを顧みることなくこのように感銘を受け、自分は神の靈感のもとにあると自ら信じるなら、懐疑が至る所で私たちの陣営に蒔かれ、私たちはサタンがそのメッセージを運ぶところに置かれることになる、という警告が与えられた。頑なな不信と懐疑が人の心に蒔かれ、奇異な悪の収穫が真理に取って代わるであろう。Manuscript Releases 第20巻、17-22。

第二世代の歴史は、反逆の激化を示している。エゼキエルの「像の部屋」によって表される心霊主義は、次のことを示している。「ダニエルズ兄弟とプレスコット兄弟は、自らの経験の中に心霊主義的な装いを帯びた見解を織り込み、もしできることなら選ばれた者たちさえも惑わすような美しく響く主張へと、わたしたちの民を引き寄せていた。」

「the daily」に関する誤った見解と結びついた心霊主義は、もしできることなら選ばれた者たちさえも惑わすものの象徴である。彼女は、ケログが推進していた汎神論的心霊主義と、プレスコットとダニエルズが「the daily」をキリストの聖所での奉仕と定義しようとする動きを結び付けている。

彼女は彼らに、その本には手を出すなと告げた。これは、プレスコットとダニエルズが、ミラーと同じように「the daily」を特定した彼の教えを取り除くために、ユライア・スミスの著書『Daniel and the Revelation』を書き換えようとしていた動きに向けられたものであった。イザヤが「学者」と呼ぶラオデキアの歴史改竄者たちは、アドベンチズムの無学な人々に対して見事な仕事を成し遂げた。というのも、彼らは歴史の証言を歪め、耳ざわりのよいことを好み浅い学びに終始する者たちを、「the daily」の主題は重要ではなく、ミラーはその点で誤っていたのだと思い込ませてきたからである。その改竄の業は、神の力の現れが真夜中の叫びにおいて再現される時、「ほこり払いの男」によって掃き去られるべきだとミラーに示されたがらくたの一部である。

ラオデキア的アドベンチズムの第二世代についての考察は、次回の記事で続けます。

「前進せよ」というメッセージは、今なお聞かれ、尊重されるべきである。私たちの世界で生じている多様な状況は、これらの特異な展開に応える働きを求めている。主は、霊的に鋭く明敏で、聖霊に働きかけられており、確かに天から新たに与えられるマナを受けている人々を必要としておられる。そのような人々の心に、神の御言葉が光を閃かせ、これまで以上に安全な道を彼らに明らかにする。聖霊は知性と心に働きかける。神の使者たちを通して巻物が世界に向けて解き広げられている時が来た。私たちの学校の教師たちは、これまで教えられてきたことだけを教えるようにと言われて縛られるべきでは決してない。そのような制約は取り払われるべきである。神の民が語るべきメッセージをお与えになる神がおられる。いかなる牧師も、束縛のもとにある

と感じたり、人間の物差しで測られたりしてはならない。福音は、神が送られるメッセージに従って成就されなければならない。今日、神がそのしもべたちに語らせることは、二十年前にはおそらく「現在の真理」ではなかったかもしれないが、今この時のための神のメッセージである。『1888年資料』133頁。